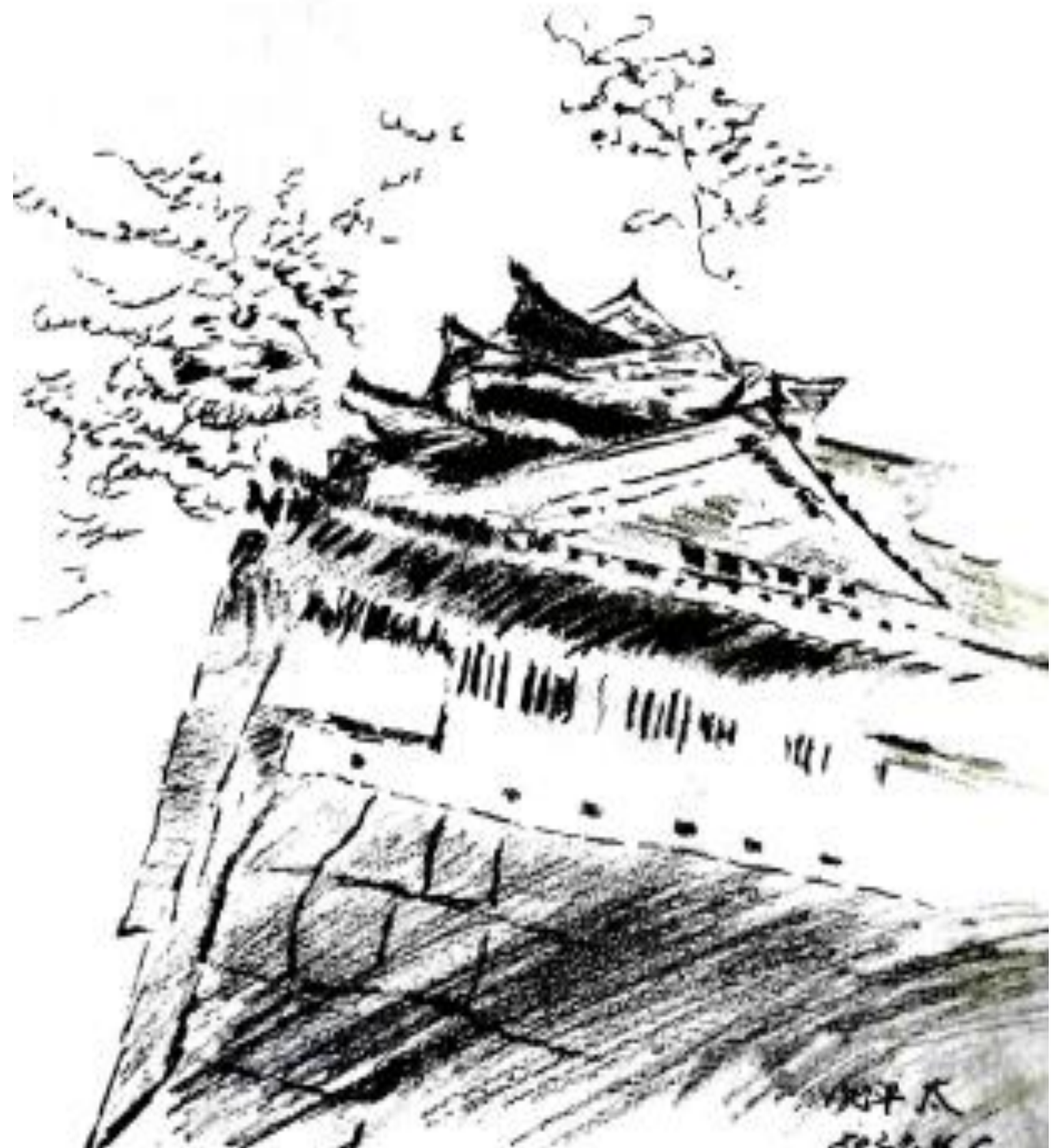


# 閣守天柳川

2023年12月号



第8回例会 2023年11月15日(水)

投句締切分

お題 「遙か」

真鍋心平太 選

山村の学友遙かなる会話

未来旅行いっそ宇宙の果ての果てまで

煙立つ山の向こうに暮らしある

マイバツ八乗ってみたいが金がない

にんげんを遙か超えたか>πは

寅さんのマドンナ風と共に去る

古い重ね猶途遙か我が求道

冠雪の富士に諭されてる木立

昔なら遙か彼方が米メジャー

兄弟が仲良しだった日の遙か

(五客)

佳5 遙か来て連れ合いの尻石白に

佳4 立山を遙かに望み廃校式

佳3 満天のはるかかなたの昴落ち

佳2 遙かなる夢追いかけてしやれこうべ

佳1 人間の暮らし三猿まで遙か

武智三成

波部珀兎

ルイ

江崎紫峰

船木しげ子

平川柳

青鬼堂一宇

小林満寿夫

勘兵衛

春田敏晴

青鬼堂一宇

加山勝久

岩原一角

平川柳

山野寿之

(三才)

人 ひとりぼち翼よあれが巴里の灯だ 春田敏晴

地 夢追うて追うて人間まで遙か 井澤壽峰

天 冷凍の遙か遙かは妻の味 山野寿之

軸 まだ夢に飮する山の呼び声 真鍋心平太

(選評)

人の句

たった一人でのリンドバーグの太平洋横断飛行を

映画化したのが「翼よあれが巴里の灯だ」という映画。

ラストで巴里が遙かに輝いている。これは実際に撮影に

協力したパリ市が全市民に電灯を灯すように呼びかけたそう。

地の句

ニーチェは「もし神を信するならば何故自分が神になろうと

しないのか」と言ったが、この句によれば「神になろうと夢見る

ことは人間になることだ」と言っている。巷に溢れる人々はまだ

人間ではないと言っているのだ。言われてみればそうかも知れない。

天の句

最近の冷凍食品は本当に美味しい。高いお金を出してレスト

ランに行かなくても、我が家で美味しいグルメを頂ける。調理技術

や冷凍技術の進歩のおかげだと思おうが、それが、それらの技術の

遙か先にある「妻の味」や「母の味」、即ち「家庭の味」を求めて

のことであれば猶更嬉しい。

# お題 「感」

互選

- 1点 故郷に帰ればパンダ敏感に  
感動と希望与えるアンバサダー  
アレのアレ見事に感化虎フアン  
戦争は知らん感情は反戦  
高感度フィルムに何も写らない  
直感が危険回避を呼び覚ます  
繰り返し阪神のアレ感動だ  
死んだとはまだ実感がないゾンビ  
少子化で席譲りたい若者に  
やった感少しも見えぬこの政権  
釘打たれ痛み感じている枢  
がんばって小2のエルありがとう  
感動の波打ち寄せる好試合  
感極み泪溢れて皺伝い  
凍つてる空気の中にいる私  
別れ際感極まってひしと抱く  
直感で進路を決めた青春期  
感謝する心妻へのアリガトウ  
ステルスを第六感が察知する  
青空の青を盗んだフェルメール
- 2点 小林満寿夫  
勘兵衛  
武智三成  
岩原一角  
真鍋心平太  
ルイ  
船木しげ子  
波部珀兎  
勘兵衛  
加山勝久  
平川柳  
武智三成  
井澤壽峰  
青鬼堂一宇  
ルイ  
久世高鷲  
江崎紫峰  
井澤壽峰  
青鬼堂一宇  
平川柳

- 6点 何しても五感鈍ったホトトギス  
7点 青い日の多感は恋の走馬灯  
ふれないで下さいと桃の感受性  
大輪の薔薇満開の焦燥感  
8点 感情の昂り抑え子を諭す  
紅葉刈いつかひとりになる予感  
9点 人間の感性を消すデジタル化
- 小林満寿夫  
山野寿之  
真鍋心平太  
春田敏晴  
久世高鷲  
春田敏晴  
山野寿之
- 得点があるものをすべて点数順に掲載しています。  
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

今月の投句者（16名）

- |      |       |       |
|------|-------|-------|
| 井澤壽峰 | 加山勝久  | 波部珀兎  |
| 山野寿之 | 岩原一角  | 平川柳   |
| 春田敏晴 | 久世高鷲  | ルイ    |
| 江崎紫峰 | 小林満寿夫 | 真鍋心平太 |
| 勘兵衛  | 舟木しげ子 | 青鬼堂一宇 |
| 武智三成 |       |       |

今月投句者は16名でした。ありがとうございます。

## 心に響く

真鍋心平太

人間とは摩訶不思議なものだ。

テレビでは戦争で毎日何十人、何百人死んだとかまびすしい。アナウンサーも居並ぶコメンテーターも通り一遍の哀悼や同情や批判を並べ立てるが、肝心なところで派手な〇が入ったりして白々しい。しかもあれほど騒いだウクライナどこへやら、今やガザ一辺倒である。我々はガザの事情などほとんど知らないし、ニュースが済めば、グルメ番組や、何の役にも立たない情報の垂れ流しを眺めているだけで、毎日の繰り返しに心は麻痺して悲しみも痛みも感じない。人間の体と心は耐久力と持久力があるものだと思う。

ではこちらは平穩無事かというと、そうでもない。交通事故や、殺人事件や、災害や、火事で毎日何十人と死者がでるし、自殺するひと年に数万人いる。災厄に遭遇する人にとっては、ウクライナであっても日本であっても同じことである。神は何故人間の無二の味方でなく人間を覗う戦や災厄にこれほど生成繁茂を与え給うかと聞きたくなる。

しかし、それでもなお人間は、他のなにものにも益して、すこやかな生き物である。自然に飼いならされることに甘んぜず、神をつくり、逆に自然を屈服させ、原子力までも手に入れて利潤を取るといふ、狡猾でたいへんなしたたかものである。その眼は地平線、水平線からあまねく宇宙までも切りひらきその精神は万物を仲間にする。別の一面では感じやすい肉体と心を持つ故にこのうえなく弱弱しく、自己の悪業にさいなまれて立っていることさえ危なげに見える。

こうした人間の矛盾をときおり振り返ってみるのが俳句や川柳や、短歌、詩というものではないかと思っている。生きながらえて川柳を読むことは大変恵まれたことなのだ。

川柳が人間を詠むというのであれば、姿勢を正して詠むべきであると思っっているのです。そこに目が向いていない句を見ても心に響いて来るものがなく物足りない。

## 句集「人生とは牛歩」

武智三成

武智三成さんから句集を頂いた。タイトルは「人生とは牛歩」。目次は「出会い」「めざめ」「短句」の3章からなっている。

90 ページ、1 ページ3 句立てだから三百句近くが収められている。巻末を見ると昭和41 年から川柳を始められたとあるから六十年近い柳暦になる。果たしてこの間にいくつの句を作られたことか。句を拝見しているとコツコツと長い間句を作り積み重ねることがいかに大事かということが、そしてその辿り着くところは豊穡な人生賛歌であるということがよく分かる。命とは長くあるべきだ。戦争をして命を奪うあつなど愚の骨頂である。幾千、幾万回、平和を叫ぶより「人生とは牛歩」というこの句集を読めば事足りる。

仲人にやさしそうかと母は聞き  
長屋から引つ越したいとみな思い  
かくれんぼ車の陰は叱られる  
ばら寿司の味にみんなが寄ってくる  
定年の朝に目刺しが焼けてくる  
春便りくぎ煮を貰い長電話

一浪の春に周りの目は温い  
腹巻にステテコ街の絶滅種

入院の妻とバナナを分ける朝

いずれも自分が詠んだ句かと錯覚するくらい思いあたる句ばかりで懐かしさがこみあげて来る。詠嘆や祈り、悲しみ、喜びを理論的に表せば思想や哲学ということになるがそれに限界を感じる人は芸術でそれを表す。これらの句を読めば人生の真実に触れることが出来るような気がする。

最後に短句から一句

別れた後のひとり駅そば

私が短句に惹かれるきっかけになった句。人生の余白とはこういう時のことを言うのではないかと思わせる一番好きな三成さんの句である。

ということとで今月の巻末の絵は「JR環状線京橋の駅そば」である。子供の頃天王寺参りに行ったとき、予備校と大学に通った5年間、その後は通勤や、休みの日の買い物途中にと、この駅そば屋の前を数えきれないほど通ってきたものだが、数年内にこの一帯は大規模再開発が計画されているようである。この風景ももうすぐ消えることになると思うと少し寂しい。

(真鍋心平太)

# 第9回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「帰る」 真鍋心平太 選

「暖」 互選

(投句 各 2 句)

投句開始 2023年12月9日(土) から

投句締切 2023年12月15日(金) まで

互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。

12月16日(土) ~ 12月19日(火)

披講発表 12月20日(水) から随時閲覧可能になります。

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は  
下記 URL から可能です。

[http://excellan.kir.jp/ten\\_reikai/web\\_siyou\\_menu.php](http://excellan.kir.jp/ten_reikai/web_siyou_menu.php)

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

[http://excellan.kir.jp/ten\\_reikai/id\\_make.php](http://excellan.kir.jp/ten_reikai/id_make.php)

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



鉛筆画 心平太

(クリックすると大きくなります。)

二〇二三年一月二十五日発行

ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

Tel・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446